

## 博報堂、クロスモーダル技術を活用し、勉強の作業効率や 継続意欲を高めるプロダクト、「WRITE MORE」を開発。

株式会社博報堂(東京都港区、代表取締役社長:戸田裕一)は、高知県佐川町、神戸市他が参加するソーシャルデザインプロジェクト issue+designとの協働により、学習支援プロダクト「WRITEMORE」を開発しましたので、お知らせいたします。

「WRITEMORE」とは、「勉強したくなる机」というコンセプトで開発した学習支援プロダクトです。

人がものを書く際にペン先と紙が摩擦して生じる筆記音。これを増幅して書き手に伝えることで、人の聴覚を刺激し、人、特に子どもたちが文字や絵を描く際の継続意欲や作業効率、学習への楽しさを高めていくことができます。

東京大学苗村研究室(苗村 健教授:JST CREST「局所性・指向性制御に基づく多人数調和型情報提示技術の構築と実践」研究代表)が開発した筆記音の強調フィードバックが筆記作業に与える効果に関する研究を博報堂研究開発局の協力のもと、このプロダクトに応用致しました。

博報堂では、今後もissue+design他との協働で、今回のような最先端の科学技術やテクノロジーと広告会社の持つデザインやクリエイティビティを組み合わせ、社会課題を解決するためのものづくりに取り組んで行く予定です。



### ｜クロスモーダルとは｜

揺れる風鈴を見てそこから出る音を聞くと、実際の温度は変わらなくても涼しく感じる場合があります。また、かき氷の赤色はイチゴ味、緑色はメロン味といったようにさまざまな味を楽しめますが、実は安いシロップでは、色が異なるだけで味の元になる材料は同じということをご存知でしょうか。人は舌だけで味を感じているわけでも、肌だけで温度を感じているわけではありません。5つの感覚が互いに交わり、相互に作用しながら、感覚は生れています。このような感覚の仕組みがクロスモーダル(感覚間相互作用)と呼ばれ、得る感覚や体験そのものを自由に設計できるものづくりやサービスデザインに活かせるとして近年注目されています。

## WRITE MOREとは

WRITEMORE(ライト・モア)は、書くことが楽しくなるボードです。

アプリとセットで使うことで、カリカリ、ガリガリ、サラサラといった

書くときにでる音“筆記音”を大きくすることができます。

東京大学大学院の研究\*によると、自分の筆記音を聞くことで、ひとは書くことに

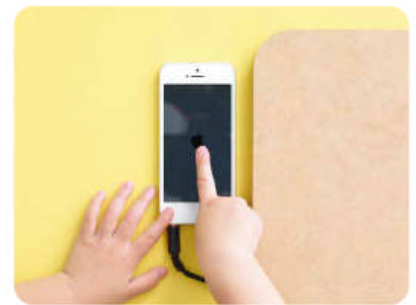
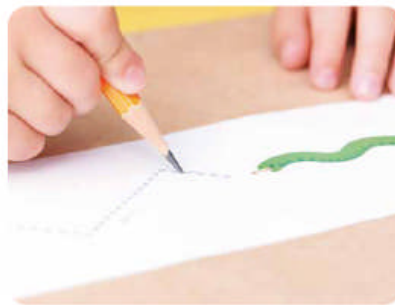
夢中になり、美しい線や文字を速く書けるようになることがわかりました。

子どもたちに、書くことをもっと楽しんでほしい。

WRITEMOREは、そんな思いから生まれたプロダクトです。

### 遊び方

1. ボードからでているコードをスマートフォンのイヤホンジャックに挿して、ボードのスイッチをONにします。  
(iPhoneと専用のアプリが必要です)
2. ボードの上に専用の練習帳、または好きな紙を置いて、鉛筆で線や文字を書くと筆記音が大きくなります。
3. アプリ画面で好きなボタンをタップすると、筆記音がいろいろな音に変化します。



### 東京大学大学院苗村研究室とは(公式ウェブサイトより)

情報メディア・コンテンツ技術は、速くて便利なだけでなく、人々の心を豊かにする存在へと進化しつつあります。苗村研究室では、人間主体の情報技術パラダイムの開拓を進めてきました。研究では、ソフトウェア(信号処理・画像の認識と合成)とハードウェア(光学設計・センサ応用)の両者に基礎を置き、普遍的な理論体系を構築するとともに、システムを設計・実装していきます。さらに、その成果によってもたらされる人々の新たな「体験」を、心理実験を通じた評価やアート表現へと結びつけていきます。論文だけでなく、一般向けも含めた国内外でのデモ展示に力を入れています。

### issue+designとは

神戸市を中心に、全国各地の自治体、大学、NPO等が参加し、地域や社会が抱える様々な活動をデザインの力で解決するプロジェクトを実施するデザイン集団。